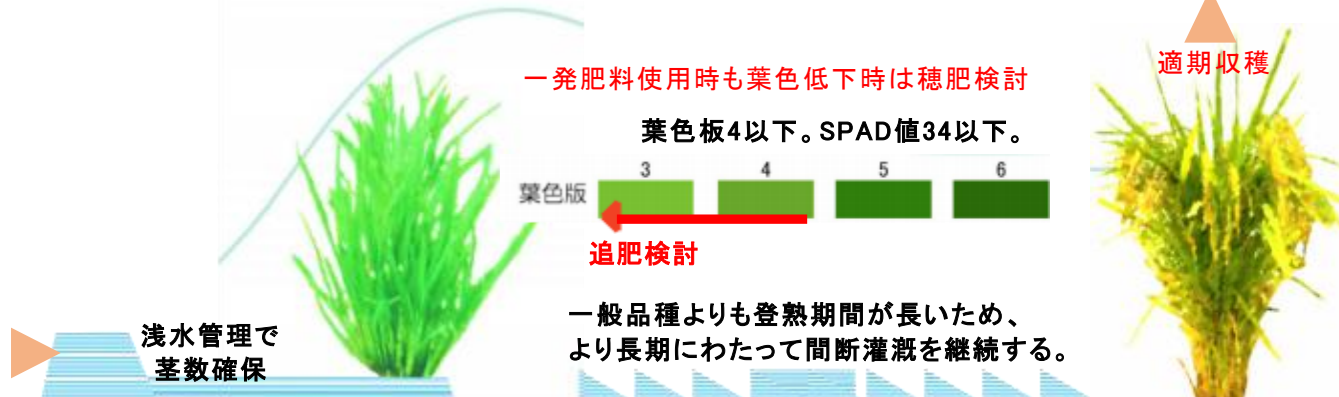


九州(平坦地) ゆみはりづき/風雅 3-1(中生種) 栽培暦 二版

2026年8月 水稻生産技術研究所作成

作 期 目 安		4月			5月			6月			7月			8月			9月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
		田植									出穂			収穫					
	早期栽培	田植									出穂			収穫					
	晩期栽培				田植									出穂			収穫		
	コシヒカリ(参考)	田植									出穂			収穫					

- 多収性
・1穂粒数が多く、千粒重も大きい多収品種です。
- 耐倒伏性
・稈長70cm程度の短稈品種で耐倒伏性があります。
- 耐病性
・縞葉枯病・いもち病への抵抗性を持ちます。
- 高温登熟耐性
・白未熟米の発生を抑え、整粒率の上昇が見込めます。
- 収穫時期
・出穂は「コシヒカリ」と同時期ですが、穂が大きく登熟に時間を要するため、収穫時期は「コシヒカリ」に比べ遅くなります。



分けつ期 幼穂形成期 出穂期 成熟期

<施肥(N成分)目安>

- 一発肥料(100日タイプ) 9～10kg/反
※コシヒカリ栽培時に6～7kg/反施用する圃場。
- 圃場地力により加減する。
- 分施の場合は基肥6～7kg+穂肥2～3kg/反が目安

<最高分けつ期生育目安>

目標茎数	葉色	有効茎歩合
550本/㎡	SPAD値40	70%以上

<穂肥目安>

- 1回目：出穂20～18日前頃
- 2回目：出穂15～10日前頃

<実肥>

- 登熟が遅れる懸念があるため非推奨

<収量構成要素の目標(660kg/反)>

穂数	一穂粒数	千粒重
380本/㎡	140粒	23g

<播種量>

- 地域慣行と同等。
- 密苗栽培も可能。

<消毒>

- 未消毒種子のため必ず適切な種子消毒を実施。
農薬使用時の温度条件に注意する。
- 塩水選は行わない。

<催芽処理>

- 休眠が深いため、一般品種より長めに浸種してから催芽を行う。
- 水温10℃以上で浸種を行う。

<育苗日数>

- 地域慣行と同等。

<中干し>

- 小ひびが入り地固めできる程度にしっかりと実施。
- 過剰分けつが懸念される場合は、早めに実施。

<高温登熟対策>

- 出穂後高温が予想される場合は、かけ流し灌漑や昼間の保水管理を実施。また落水時期を延長。



<防除>

- 地域慣行と同等。ただし下記やトビイロウンカ被害が大きい地域では箱施用での防除推奨。
※要注意病害虫
・紋枯病、稲こうじ病、白葉枯病、イネツトムシ、ニカメイチュウ
- 出穂が周辺作付品種とずれる場合は、カメムシ防除時期に注意。

<収穫>

- 胴割粒の防止のため、籾黄化率85～90%の収穫を推奨。
穂先端からの胴割に注意しつつ、下部まで登熟させる。
- 籾黄化率80%未満の早刈りで未熟粒が多発し減収する。
- ゆっくりとした速度で収穫する。

<乾燥>

- 胴割粒の防止のため、一般品種より乾燥速度を落とす。
- 可能なら水分18%程度で乾燥を止めて、水分むらを是正してから仕上乾燥を行う(二段乾燥)。

<調製>

- 網目は一般品種と同じ。
- 着色粒や被害粒を中心に色彩選別機で選別。
白度の感度を強くすると収量減に繋がる。

九州(中山間地) ゆみはりづき/風雅 3-1(中生種)

栽培暦 二版

2026年8月 水稻生産技術研究所作成

作 期 目 安		4月			5月			6月			7月			8月			9月	
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
	推 奨						田植							出穂			収穫	
	コシヒカリ(参考)						田植							出穂			収穫	

- 多収性
・1穂粒数が多く、千粒重も大きい多収品種です。
- 耐倒伏性
・稈長70cm程度の短稈品種で耐倒伏性があります。
- 耐病性
・縞葉枯病・いもち病への抵抗性を持ちます。
- 高温登熟耐性
・白未熟米の発生を抑え、整粒率の上昇が見込めます。
- 収穫時期
・出穂は「コシヒカリ」と同時期ですが、穂が大きく登熟に時間を要するため、収穫時期は「コシヒカリ」に比べ遅くなります。

浅水管理で
茎数確保

一発肥料使用時も葉色低下時は穂肥検討

葉色板4以下。SPAD値34以下。



追肥検討

一般品種よりも登熟期間が長い
ためより長期にわたって間断灌漑を継続する。

適期収穫

<施肥(N成分)目安>

- 一発肥料(100日タイプ) 9~10kg/反
※コシヒカリ栽培時に6~7kg/反施用する圃場。
- 圃場地力により加減する。
- 分施の場合は基肥6~7kg+穂肥2~3kg/反が目安

<最高分げつ期生育目安>

目標茎数	葉色	有効茎歩合
550 本/㎡	SPAD値 40	70% 以上

<穂肥目安>

- 1回目：出穂20 - 18日前頃
2回目：出穂15 - 10日前頃

<実肥>

- 登熟が遅れる懸念があるため非推奨

<収量構成要素の目標(660kg/反)>

穂数	一穂粒数	千粒重
380 本/㎡	140 粒	23 g

<播種量>

- 地域慣行と同等。
- 密苗栽培も可能。

<消毒>

- 未消毒種子のため必ず適切な種子消毒を実施。
農薬使用時の温度条件に注意する。
- 塩水選は行わない。

<催芽処理>

- 休眠が深いため、一般品種より長めに浸種してから催芽を行う。
- 水温10℃以上で浸種を行う。

<育苗日数>

- 地域慣行と同等。

<中干し>

- 小ひびが入り地固めできる程度にしっかりと実施。
- 過剰分げつが懸念される場合は、早めに実施。

<高温登熟対策>

- 出穂後高温が予想される場合は、かけ流し灌漑や昼間の保水管理を実施。また落水時期を延長。



<防除>

- 地域慣行と同等。ただし下記やトビイロウンカ被害が大きい地域では箱施用での防除推奨。
※要注意病害虫
・紋枯病、稲こうじ病、白葉枯病、イネツトムシ、ニカメイチュウ
●出穂が周辺作付品種とずれる場合は、カメムシ防除時期に注意。

<収穫>

- 胴割粒の防止のため、籾黄化率85~90%の収穫を推奨。
穂先端からの胴割に注意しつつ、下部まで登熟させる。
- 籾黄化率80%未満の早刈りで未熟粒が多発し減収する。
- ゆっくりとした速度で収穫する。

<乾燥>

- 胴割粒の防止のため、一般品種より乾燥速度を落とす。
- 可能なら水分18%程度で乾燥を止めて、水分むらを是正してから仕上乾燥を行う(二段乾燥)。

<調製>

- 網目は一般品種と同じ。
- 着色粒や被害粒を中心に色彩選別機で選別。
白度の感度を強くすると収量減に繋がる。